

朝日カルチャー 野外の自然観察 「冬も楽しい植物園」

2020/1/17 (金) 地下鉄桜坂駅から南公園の森の中を上がって動植物園に入るコースで歩きました。森の中ではフウトウカズラやアオキの実、ヤブツバキの花を見て最高地点の大休山で一带の地形の変遷や動植物園の開園までの歴史について学習しました。

動物園西門から入園して、カバやコウノトリ猛禽類などの前ではなかなか立ち去りがたけれど、今日の目的は植物園です。

野草園のエリアから観察開始です。ソシンロウバイの香り、咲き始めた紅梅、あでやかな色とりどりのツバキ、サザンカ。もうちょっとで咲きだすかなと思われるフクジュソウの花芽も沢山見えます。



「あーっ、この虫タマスダレを食べつくすのよ、何だろうね」という声。白黒の模様でインパクトのある虫がタマスダレの中にたくさんいます。あとで調べてみたらハマオモトヨトウという蛾の幼虫で、ヒガンバナ科のタマスダレやヒガンバナの葉を食べる害虫だということでした。

そして、皆さんに見ていただきたいのがヒゼンマユミ。ニシキギ科の樹木ですが光沢のある深緑の常緑の葉に赤い種子を包んだオレンジ色の果皮が映えてたわわに実っています。

まだまだたくさんの花が咲いているバラを眺めながら、昼食はバラ園の展望デッキで。

食後は温室へ。ランやブーゲンビレアは通年咲いているようですが、トケイソウやカエンカズラ、ソランドラなどの花は新鮮。でっかいサボテンに驚いたりバナナやパイアの実を眺めたり南国の植物を堪能しました。



温室を出て紅葉樹のエリアに入りました。ここでは主に冬芽と落葉痕の観察になります。

ブナのとんがった冬芽やハシバミの伸び始めた雄花、色々な形のカエデの仲間。

スズカケノキの冬芽は、葉が落ちるまでは葉柄のねもとに包まれていたのにいまはむき出しの状態です。でも芽鱗はちゃんとかぶっているのが芽吹きの時まで大丈夫。

斜面一带に咲いているニホンズイセンは最盛期を過ぎていましたがいいかおりはいっぱい漂っていました。

芝生広場から針葉樹園を歩き足元に咲き始めたクリスマスローズ、カンザキハナナなどを眺めて散会しました。

溝口